

## 中学受験が大学受験を失敗させる

私は小学生の時に、中学受験するわけでもないのに算数塾に通わされました。小学校の授業に落ちこぼれていたのをなんとかしたかったのが、小学6年の頃には中学受験用の算数教材をガリガリ仕上げるほどになっていました。

今年、九州大学工学部に合格した祐誠高校の生徒には、この久留米自習室一年目に佐賀大学医学部に合格した附設高校の生徒の勉強したカリキュラムをやらせました。その生徒が、九州大学工学部を滑り止めとして勉強していたカリキュラムでしたから、トップ合格を狙わせる意味でやらせました。ちなみに、その生徒の弟（附設高校）が今年、佐賀大学医学部に合格しましたが、やはり同じカリキュラムで二人で勉強させました。上の3年前の生徒から、「もう少し、長文対策のプリントが欲しかった」という事で、去年は英語のプリントを配って、全員にやらせました。久留米高校の生徒が、今年うちから上智大学の英文科に補欠合格しましたが、そのプリントを作ってくれた末崎先生のおかげです。上智大学の外国語学部なら、うちから何人も合格させてもらってますが、英語学科はですね・・・補欠でも、合格するのは大変な事でした。

さて数学の話に戻りまして、最初私はその祐誠高校の生徒が、途中で医学部対策に挫折するであろうと思っていました。特に、数学ですね。そうなったら、普通の九大対策をさせようと思っていました。しかし、彼はやり遂げました。附設などの中高一貫の生徒なら、あの数学についていけるのですが、中学受験をやっていない、公立中出身の彼がやり遂げました。全統記述模試で、学年一位。物理だけ計算ミスで二位でしたが、他は全て一位を取りました。九州大学を滑り止めにするカリキュラムですから、当然でしょう。私は不思議に思い、中学生の頃までどんな塾に行っていたのかと尋ねると、実は小学生の頃から算数塾に通っていたのです。私と同じだったのですね。つまり、小学生の頃から算数を鍛えておく事が重要です。中学生からはじめては、遅すぎます。そして、附設クラスの中学受験対策クラスに入れるのであれば、中学受験塾に通う価値はあると思いますが、そうでなければ、逆効果です。附設に合格しなくてもいいから、附設を受験するクラスに入るなら、算数や国語中心の指導になります。しかし、附設を受験すらないクラスになりますと、社会や理科中心の指導になります。つまり、算数や国語を形だけしか習えなくなります。

久留米自習室では今、中学受験をしない小学生に、国語と算数を教えています。社会や理科は極端な話、高校生からでも間に合います。ですが、国語や算数は小学生まで勝負です。最近の学生の国語力不足の原因ですが、共働きの増加だと思います。昔なら、専業主婦で母親が夜に本の読み聞かせをやっていたものです。しかし、今の母親は仕事で疲れていてできません。バブルが弾けて後、私が子供たちに本の読み聞かせをすると、喜ぶ子が増えてきたなと思います。親にやってもらった経験が少なくなっているのでしょうか。そして、受験算数をやってきたはずの中高一貫の生徒たちが、なぜか数学を苦手としているのは、小学生の時に理科と社会中心の受験指導ばかりで、算数をあまり習ってないからとわかってきました。普通の生徒には、中学受験は逆効果だと思います。「中学を受験しないから、国語と算数だけを教えて欲しい」それが普通の生徒の正解だと思います。